

少花粉スギならびに少花粉ヒノキにおける種子の生産性向上試験

【研究概要】

少花粉スギにおいて、発芽率の低下をもたらすカメムシの被害対策のために、採種木に袋かけを行う方法と従来の薬剤による防除を行い、その発芽率を比較し、最適な防除方法を提示する。また、少花粉ヒノキについては、種子生産の継続や増量を目的とした剪定方法を確立するため、剪定試験を行った。その結果、少花粉スギの発芽率は、全袋かけ区が最も高く、枝袋かけ区、葉散区、対照区の順に低くなり、袋かけにより発芽率は高くなることが明らかとなった。2022年のカメムシの捕獲数は前年より極めて多く、カメムシの多発年においても袋かけは高い防除効果であった。少花粉ヒノキでは、採種できた枝の割合は、除去処理を行った場合は行わない場合の約2倍だった。採種できた枝1枝あたりの球果数および種子重量は、除去処理を行った場合は、除去処理を行わない場合より多い傾向となった。採種枝付近の相対光量子束密度は、除去処理を行うことで、約2倍に増加していた。